

## 岩手県におけるネギ小菌核病の発生について

近年、ねぎの葉が途中から折れて枯れ、被害葉上に菌核を形成する病害が見られているが、病徴および菌核の形態から「ネギ小菌核病」と診断した。本病は県内各地で見られ、6月頃から発生する。また、前年発生圃場では翌年も発生する傾向がある。

### 1. 背景

近年、ねぎの葉が途中から折れて枯れ、その後被害葉上に菌核を形成する病気の発生が認められ、症状や菌核の形態から「ネギ小菌核病」と診断した。本病は本県での発生実態が不明であることから、防除の資とするために、発生状況調査を行った。

### 2. 病徴

- (1) 発生初期は葉の途中に退色斑がみられる(図2)。その後、退色斑部から葉が折れて(図1、3)葉先まで枯れあがる。病斑部表面には気中菌糸や分生子等は確認されない。被害葉を裂き内部を検鏡すると白色菌糸が確認される(図4)。
- (2) 病状が進み枯死した被害葉上には菌核を形成する(図5-6)。菌核は被害葉を取り込んで形成されているため剥落しにくい。形態は黒色、扁平、楕円形～不定形で、大きさは0.5-3.5×0.7-7.0 mmである。  
(ネギ小菌核病については裏面を参照)

### 3. 診断のポイントおよび留意点

- (1) 本病は葉の途中から折れて、葉先が枯れあがり、枯死部に菌核を形成するのが特徴である。
- (2) 葉が折れて枯れ始めると退色斑部は乾燥し、くびれたようになる。この点で、他の病害による葉折れや葉先枯れと区別できる。
- (3) 本病と類似の病害にボトリチス属菌による白斑葉枯病がある。白斑葉枯病も葉の枯死部に菌核をつくるが、多湿条件下で灰色のかびを生じる点で本病と区別できる。
- (4) 本病はねぎの他にたまねぎも侵す。



図1 被害圃場



図2 初期病斑(赤枠内)



図3 被害葉(赤枠内)



図4 被害葉内部の白色菌糸



図5 枯死葉上に形成された菌核



図6 被害葉の枯死部に形成された菌核

**<ネギ小菌核病について>**

**病原菌**： *Ciborinia allii* (Sawada) Kohn

**発生態**：病原菌は子のう菌に属し、菌核・子のう盤を形成し、子のう胞子を生じる。被害葉に形成された菌核で越冬し、翌年子のう盤を生じて子のう胞子を飛散して伝染する。子のう盤の開盤は 15℃前後で良好となる。したがって、本病の発生は年2回と考えられているが、冷涼な北海道では6月下旬ころから秋期まで発生する。

**発生条件**：気温 15℃前後で多雨・多湿のときは子のう胞子の形成量が多くなるとともに、子のう胞子の感染にも好適なため、本病の発生が多くなる。

**病徴**：本病は外側の古い葉身の先端部や中位部にアズキ粒大の白色の斑紋が形成され、急速に拡大し、周囲の輪郭が不鮮明な灰白色の縦長病斑となる。さらに病状が進むと病斑から上部が垂下し灰白色に枯死する。病斑表面には何も認められないが、被害葉の内部には白色綿毛状の菌糸が密生する。枯死葉や葉鞘には直径1～7mm、黒色、薄片状の小さい菌核が散生する。菌核は被害葉を取り込んで形成されているため剥落しにくい。

(参考文献:原色野菜病害虫百科6「ネギ・アスパラ・ミツバ他」第2版(2005)ネギ<小菌核病>、澤田兼吉(1919):台湾産菌類調査報告 菌核属 65 葱小菌核病菌)

**4. 岩手県における発生状況**

- (1) 県内各地で発生が見られ、調査したほとんどの市町村で発生が確認された。また、調査した範囲では品種間差は認められなかった(図7)。
- (2) 発生好適気温が 15℃前後であることから、県内では初夏と秋期に発生の増加が見られる。概ね初夏は6月～7月、秋期は9月～10月に発生が見られ、盛夏期にはいったん収束する(図8～9)。地域や年度によって若干変動があるものと思われる。
- (3) 菌核から飛散する子のう胞子のみで感染するため、前年発生した圃場では、翌年に再び発生する事例が多い(表1)。

**5. 防除**

- (1) 古い葉に発生し可販部では少ないため、一般に本病に対する防除は不要であるが、多発圃場では株の生育が阻害されるため防除が必要だと考えられる。薬剤防除に関しては今後検討する。
- (2) 被害茎葉上の菌核は伝染源となるので、枯死葉は除去し、圃場外で焼却または土中深く埋める。

※今回、病徴と菌核の形態で「ネギ小菌核病」と診断したが、病原菌の同定については今後検討する。

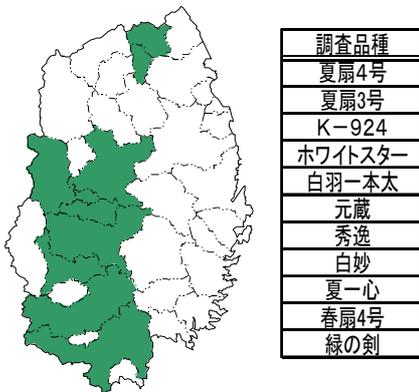


図7 ネギ小菌核病発生地域と調査品種 (灰色部分、H18～H19年)

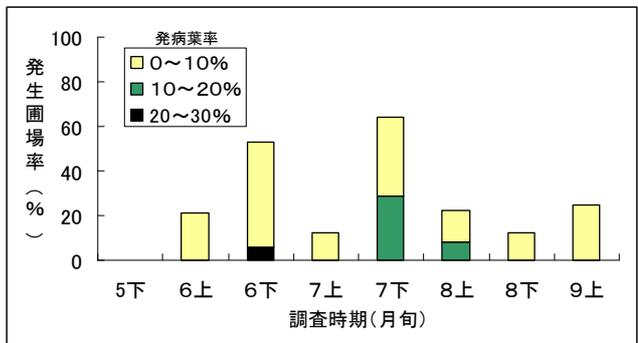


図8 巡回調査におけるネギ小菌核病発生状況 (H19年5月下旬～9月上旬)

表1 同一圃場における2年間のネギ小菌核病の発生状況

	H19年の発生圃場数	
	有り	無し
H18年の発生圃場数		
有り(8)	7	1
無し(2)	0	2

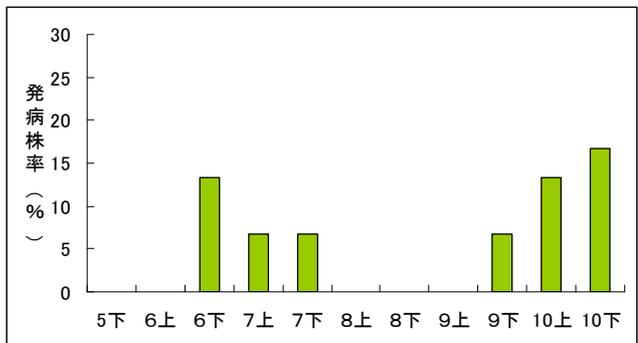


図9 ネギ小菌核病の発生消長 (花巻市、H19年)

参考文献:澤田兼吉(1919):台湾産菌類調査報告 菌核属 65葱小菌核病菌

原色野菜病害虫百科6「ネギ・アスパラ・ミツバ他」第2版(2005):p69-71

北海道病害虫防除所ホームページ「平成7年度新発生病害虫」ネギの小菌核病

日本植物病害大辞典p519-520

事業名:植物防疫事業